

和歌山市立

加太小学校

和歌山市小規模特認校

【学校教育目標】

最後までよく考え、心と体の健康を養い、
みんなと共によりよく生きる 子どもの育成

思いやり
のある子

考える
子

自らをき
たえる子

協力
する子



地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ。

『空青し、山青し、海青し。日はかがやかに 南国の五月晴れこそゆたかなれ。』作家、佐藤春夫が書いた「望郷五月歌」の一節がまさにぴったりな場所にある「加太小学校」は、和歌山県で初めての「小規模特認校」として、令和4年度からスタートしました。和歌山市の西に位置し、海と山に囲まれた自然豊かな環境のもと、小規模校の特色を生かし、地域の素材をもとに体験型の教育活動を行っています。

恵まれた自然環境に培われた歴史と伝統を、体験を通して学びながら、思いやりのある子、進んで学び考える子、協力する子、自らきたえる子の育成と、あいさつ・時間を守る・そうじを頑張る事を大切にした教育に力を注いでいます。

加太小学校長 岩本 浩志



令和4年度の努力点

- 地域素材を生かした教材研究と授業内容の工夫改善
- 幼・小・中の連携
- 「加太の自然」「加太の伝統文化」「地域行事」等、体験活動等の教材化
- 学校評価から課題を探り、効果的な方策の実践
- 生活指導の強化、徹底（あいさつ・時間・そうじ）



個性豊かな取り組み

- 奈良県川上村立川上小学校との交流や地域や保護者との交流活動
- 10分読書「あさどく」を中心とした読書活動の推進
- 基礎学力の習得「学力アップ」
- 家庭学習・自主学習の推進「家庭学習の手引き」
- 多様な指導上の連携（加太幼稚園・加太中学校）

わたしたちといっしょに体験しよう。



加太小学校は、とってもいいところです。
みんな元気で楽しいところです。
少人数なので、1年生から6年生までがとっても仲良しです。
給食は、加太小オリジナルの給食もあって、おいしいです。
クラブ活動では、「つり」ができたり、「よもぎもち」を作って食べたりできます。
とっても楽しいところなので、ぜひきてください！

加太小学校児童会 幸前 夕夏 畑中 愛菜 森朝日

加太小学校の一日



8:20 登校
8:25~8:35 朝読書・たてわり遊び
8:35~8:45 朝の会



8:45~9:30 1 時間目
9:35~10:20 2 時間目
10:20~10:35 大休憩
10:40~11:25 3 時間目
11:30~12:15 4 時間目

調理室で炊いた
ご飯は、最高!



12:15~12:45 給食
12:45~13:10 昼休憩

掃除の仕方は、上学年が
やさしく教えてくれるよ!



13:10~13:25 掃除



13:30~14:15 5 時間目
14:20~15:05 6 時間目
15:05~15:15 終わりの会
15:15~15:35 学カアップ

さようなら!



※学年や行事等に応じて、5 時間目までの日もあります。

魅力もいたくさん！

加太小学校 あれこれ



加太小学校の大きな特徴といえば「たてわり班活動」です。全校児童を縦に3つのグループに分かれ、お昼の掃除（水曜日以外）、朝の遊び（火曜日）、お誕生日会の企画（3か月に1回）、加太っ子スポーツ祭を企画、運営します。

たてわり活動



たてわり遊び



お誕生日会

春の遠足ウォークラリー



ウォークラリー（午前）



たてわり遊び（午後）

川上村合宿 (7月 or 9月)



スポーツ祭



秋の遠足 (友ヶ島)



加太っ子文化祭



磯遊び



クラブ活動



Q. 「小規模特認校」って、どんな制度なのですか？

A. 市内在住ならどこからでも加太小学校に通えるという制度です。入学、転学のためには、手続きが必要です。また人数制限があるなど、守ってほしい約束事などがあります。

Q. 「小規模特認」で通学するときには、どうやって登校しますか。

A. 登下校については保護者の責任で行っていただきます。ルートは南海加太駅まで電車、あとは徒歩で登校・下校することができます。

Q. 緊急に下校することになったときなどお迎えに行けないときはどうすればいいですか。

A. 気象警報や天災の場合は、加太地区のお子さん同様に、緊急時下校として、小学校までお迎えに来ていただくこととなります。お子さん自身で帰宅できるようになっておいてほしいのですが、どうしても帰宅ができない場合は一時学校でお子さんを一時預かりができます。

Q. 他の小学校にはない、加太小学校の特色は何ですか。

A. 校長のコメントにもありましたが、地域教材をふんだんに取り入れた教育課程を実践しているということです。また小規模校ですので、各個人の活躍の場が多く、集団意識が必然的に育まれていきます。

Q. 「小規模校」のデメリットは何ですか？

A. 学級の児童数が少ないので、学習を進める中で多様な意見が出にくいです。また、人数が少ないので大規模校ほど多様な友達と巡り合えません。でもそれに代わるメリットはたくさんありますよ。



Q. 中学校への進学はどうなりますか？

A. 小規模特認校制度を引き続き使って、加太中学校へ通うことができます。また、県立や私立等への受験進学も可能です。

Q. 放課後、習い事やスポーツ活動で、加太地区以外への通いはできますか？

A. もちろん下校後一旦帰宅してから塾など通うことは可能です。加太小学校周辺にも、塾を初め習い事ができる場所や、週末のドッジボールクラブもあります。ただし、卒業後加太中学校に通いながら、別の中学校のクラブに所属することはできません。

学級編成

【R4 年度 11 月現在】

学年	男	女	計
1 年	2	4	6
2 年	4	4	8
3・4 年	6	4	10
	2	0	2
5 年	3	5	8
6 年	7	5	12
特学（知的）	1	1	2
特学（情緒）	2	0	2
合計	27	23	50

加太の歴史と住民性

古く大和時代には加太の地は、紀の川北岸を通る南海古道の最終地点として位置づけられていたことが古文書からうかがえ、大和朝廷の文化圏に属した古い歴史を持つ土地であることがわかります。それからは、井原西鶴の文学にも登場するように、大坂（阪）、江戸の回船の寄港地として、また、中国、四国地方を結ぶ海運の要地として繁栄を続けました。明治以降は、紀淡海峡を警護する軍用基地として、重砲連隊が配備され、現在でも深山や、加太、友ヶ島に大規模な砲台跡などの戦争遺産が多く残っています。昭和42年、瀬戸内海国立公園に指定されると、観光地化が進み、脚光を浴びるようになります。

校区内には、加太国民休暇村や青少年国際交流センター、ホテル、旅館、民宿などのレジャー施設が多くあります。そのため加太の町は漁業に加え、観光の町として大きく変貌しつつあります。また今でも「雛流し」や「えび祭り」などが継承され、海と共に栄えてきた町の歴史と文化をうかがい知ることができます。

住民は純真、素朴で虚飾がなく、情に厚いといわれます。また誠意があり、他人に親切な美風も残っています。勤労を尊び、よく働くことで知られた土地柄でもあります。学校教育には理解と協力を惜みず、学校行事には保護者をはじめ多くの住民が参加する姿が見られます。

加太小学校校歌

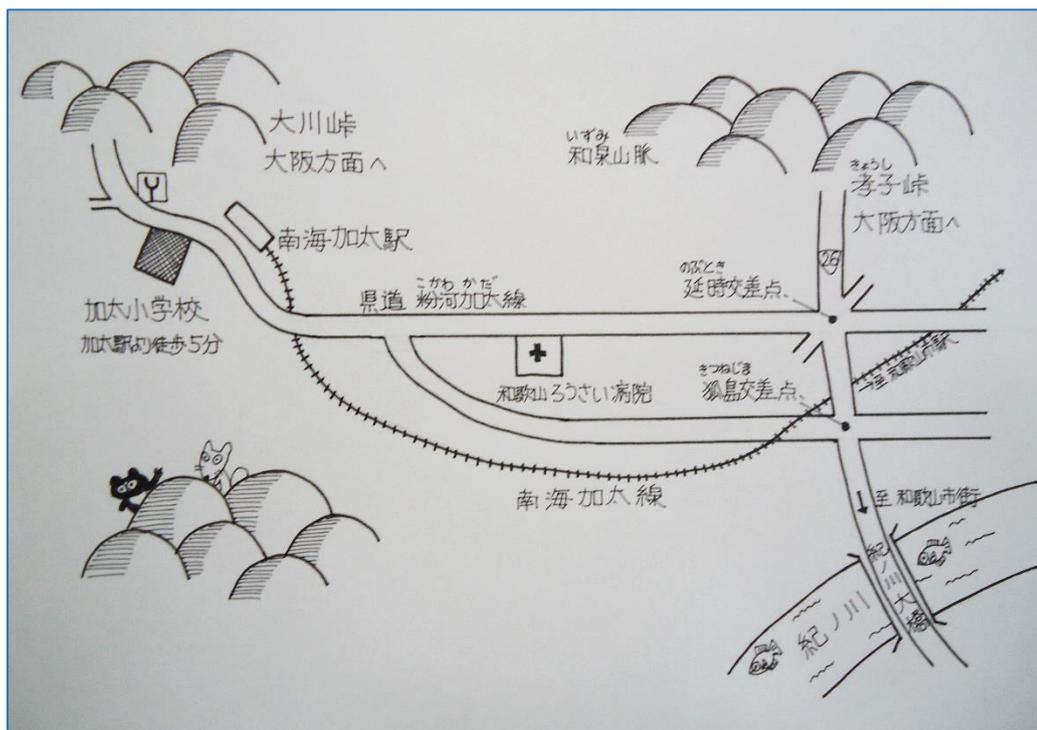
作詞 池上喜代一
作曲 片山穎太郎

一

瀧見ヶ浦に陽の輝きて
いらかそびゆるわが学舎の
永き歴史を讃えてやまず
永久に栄えんわれらが母校

二

飽浦ヶ崎に波とどろきて
うた声高きわが学舎の
若き命を讃えてやまず
永久に栄えんわれらが母校



ACCESS



〒 640-0103
和歌山市加太 1210
☎ 073-459-0049 FAX 073-459-2652
kada-es@wakayama-wky.ed.jp



HP はこちらから